



ラグジュアリーの羅針盤

COMPASS
OF LUXURY山形県鶴岡市に本社を置く
スパイバー本社

取締役兼代表執行役の関山和秀さん

今年の2月、京都府主催のZET（脱炭素テク
ノロジー）サミットに登壇した際に、スパイバー社
の開発したタンパク質素材「ブリュード・プロテイ
ン」繊維で作られた服を着る機会がありました。

柔らかい質感で着心地は快適、近未来的な繊維
の表情にも感銘を受けました。何よりも、バイオ
テクノロジーで作られたタンパク質繊維を、最後

には微生物に分解させ、そこから再びブリュード・
プロテイン™を作るという循環型ものづくり研究
に未来への希望を見ました。廃棄される衣料品
は地球環境汚染の大きな原因となっています
が、バイオ繊維が主流になれば、廃棄衣料が生
む諸問題は激減するのですから。

ファッションの未来を救うテクノロジーだと直感
し、山形県鶴岡市のスパイバー社に取材に行きま
した。私の関心の入り口はタンパク質繊維だった
のですが、会社を興した関山和秀さんの展望を
伺ったところ、そのビジョンは、私の想定をはるか
に超えて大きく、人類全体の本質的な幸福、世界
平和の実現でした。

関山さんの原体験は、高校1年のある日、ルワン
ダ虐殺のドキュメンタリーを見たことにあります。
同じ地球に住む人々が、資源を巡る争いで殺戮を
おこなう現実を直面し、なぜこんなことが起きる
のか？と考え始めます。歴史を学び、限られた食

物や水やエネルギーに対する人々の不安が戦争へ
の引き金を引くのだという結論にたどり着きま
す。

ではどうしたらそんな不幸を生むリスクを減
らせるのか？水や食料やエネルギーといった資
源に関する課題解決に尽力することが普遍的
な価値を生むことにつながるのではないかと？

そうした地球規模の課題解決にこそ自身の
有限な人生の時間を使う意義があると信じた
関山さんは、高校3年の夏、行動を起こします。
エネルギー問題や食糧問題を解決するために黎
明期のバイオテクノロジーの研究をしていた慶
應義塾大学の富田勝教授にアプローチし、慶應
義塾大学湘南藤沢キャンパスに入学して富田教
授の研究室に入ります。2年からは鶴岡市の先
端生命科学研究所で本格的にバイオの研究に取
り組むことになるのです。

関山さんは慶應初のバイオベンチャー企業
「スパイバー」を創業します。ニーズに応じた遺
伝子を設計し、それを組み込んだ微生物に植物
由来の糖を与え、そこからタンパク質を生み出
すという人工合成による構造タンパク質素材
「ブリュード・プロテイン™」の量産化に世界に先
駆けて成功します。この基盤技術は、現在です
で実用化されているアパレルや化粧品（マスカラ

繊維など）のための新素材を提供するだけの
ものではありませんでした。むしろ、輸送機器
などの製造業、農業、エネルギー産業をはじ
め、全産業において革新をもたらす、人類全体
にとって重要な技術として開発されているの
です。

関山さんの強い信念と情熱は、世界中から
支援者を引き寄せ、これまでに約1100億円
の資金調達を成功させています。創業当初は
批判を受けることもありましたが、そんなこ
とは人類の進歩にとって「誤差」にすぎないと
関山さんは達観します。ビジョン実現のために
は50年、100年という長いスパンでの取り組
みが必要と見えています。真の持続的な人間の
幸福のために、未来を生きる人たちにバトンを
つなげる存在でありたい、という言葉には、小
さな悩みなど大きな幸福にとつての「誤差」と
して吹き飛ばすパワーがあります。

人類にとつての普遍的価値を紡ぎ出す

中野香織

富山市出身。服飾史家として研
究・講演・執筆を行うほか企業の
顧問を務める。東京大学大学院
修了。英国ケンブリッジ大学客員
研究員、明治大学特任教授などを
務めた。著書多数。ジェニー・リス
ター著、中野香織監修「新装版
時代を変えたミニの女王 マリー
クワント」(グラフィック社)発売。

